



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	まえがき・目次
Citation	高等継続教育研究, 2
Issue Date	2003-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/51788
Type	other
File Information	Maegaki-2. pdf



高等継続教育研究

第2号

特 集

大学と地域社会とのパートナーシップ構築の模索

——道東地域大学調査報告書——

2003年3月

北海道大学大学院教育学研究科
教育計画講座 高等教育研究グループ

まえがき

2002年度の北大教育計画講座・高等教育研究グループは、2001年度の道北及び札幌・小樽・千歳地域の高等教育機関調査に引き継いで道東（釧路、帯広）及び札幌圏の高等教育機関調査に取り組んだ。その調査によって得られた知見の詳細は、本報告書の該当論文（光本、上田、石山、白取、各論文）及びインタビュー記録を参照頂きたい。当初の我々の予測を超えて今回の調査結果からも、それぞれの大学・短大の改革努力が真摯なものであり、これからの方向性を示唆するものと伺えた。

ところで、今回調査をしながら気付かされたのは、2001年道北調査でもそうであったが、北海道さらにその北東に位置する釧路・帯広地域の高等教育機関については、メディアの東京一極集中（北海道では札幌に一極集中）もあるのか、その改革努力が情報の「周縁」部に位置するのか、余りにも知らされていないことであった。今日、世界的な高等教育改革の激動期にあって国の政策推進部局のみならず、メディアや国民世論も高等教育（その代表としての大学）には厳しい視線を注いでいる。しかし、報道される情報の多くは、近年の公共政策形成の常例として、ソフトな世論操作が巧みに組み込まれているものも少なくない。従って、国民が手にする情報には、現今の高等教育政策推進のために、都合良く「中央」で加工されデフォルメされたものも少なくない。“経営努力の足りない大学”、“学問の自由と自治の名のもとにぬるま湯の中にある大学”、“世界の競争から取り残された日本の大学”、“悪平等が優秀な人材をつぶしている”、“市場原理から遠い国立大学が諸悪の根源であり独法化と民営化を急ぐべきだ”、“大学間競争を促進し社会淘汰をはかるべきである”、“学費の弾力化をはかり受益者負担を促進すべき”、云々、こうした世論誘導的な情報と言説を連日発信させながら、新自由主義的な高等教育政策の具体化がこの間促進されてきたとの印象は多くの大学人の共通感覚と言っても過言ではない。しかし、中央省庁からもメディアの中枢からも遠い地方の高等教育機関の実際の現場努力については、上記の政策誘導的な情報からは排除されるか、もしくはその情報の量も質も極度に低いものが流されてきたと言っても良い。しかし、余り知られていないそれら「地方高等教育機関」には、中央の情報や政策に振り回されることなく、地域にねざして独自の道を探求している事例が少なくない。今回も、我々は、本来の大学改革にとって傾聴に値する多くの教訓を調査から得たといえる。

とはいえ、本報告書の論文を一瞥されるならば、確かに個々の大学・短大の調査分析の論点や課題は複雑かつ個別的であり、必ずしも統一感のあるものではない。しかし、一見バラバラで個別的な事例に見える各大学・短大の努力も、その共通点を探れば、それぞれに「地方」にあっても大学としての学術・文化のスタンダードを高めるべく努力しながら、他方では「地域」にねざして研究・教育・管理運営・社会貢献を行おうとしていること、

特にその立地している「地域」への社会貢献の意識が高いことが特徴として浮かび上がる。別言すれば、そこには、地域社会とのパートナーシップ構築の努力が伺えるのである。そのような視点をもって、本報告書のインタビュー記録、各大学についての分析紹介にあたった個別論文を参照頂けると幸甚である。

なお、本書第1部第1章に展開する「研究ノート」は、そうした問題関心一調査全体を通じて意識された「大学と地域社会とのパートナーシップ構築」課題一の所在について、社会歴史的な文脈理解からアプローチしようとするものである。それは、同時に、幾つかの比較研究視点を含んで的方法的視点を提示することになろう。ただし、多分に試論的な展開に止まっている「研究ノート」の域にあることも否めない。草稿の段階で共通の討議に付し多くの意見を頂いたとはいえ、後に展開される各個別論文を方法論的に拘束するものではないことをお断りしておきたい。

北海道大学大学院教育学研究科
教育計画講座 高等教育研究グループ

教授 姉崎 洋一

目 次

第 1 部 道東地域大学調査報告書

第 1 章 大学と地域社会とのパートナーシップ構築の現実と課題 ——2002 年度調査に寄せて——	2 頁
第 2 章 大学と地域社会のパートナーシップ ——十勝・釧路地域の大学の事例に即して——	
1. 公立大学における「普遍性」と「地域性」統一の課題 ——釧路公立大学——	15 頁
2. 教員養成課程に期待される地域社会とのパートナーシップ ——北海道教育大学釧路校——	23 頁
3. 産業クラスター形成による産学連携のパートナーシップ ——帯広畜産大学——	31 頁
4. 地域社会における短期高等教育像の模索	
4-1 釧路短期大学	37 頁
4-2 帯広大谷短期大学	45 頁
〔補論〕コミュニティ・カレッジと短期大学	52 頁

第 2 部 資料編

第 1 章 インタビューの記録	
1. 釧路公立大学	56 頁
2. 北海道教育大学釧路校	76 頁
3. 帯広畜産大学	98 頁
4. 釧路短期大学	118 頁
5. 帯広大谷短期大学	132 頁
6. 北海学園大学	150 頁
7. 酪農学園大学（前半）	166 頁
8. 酪農学園大学（後半）	174 頁
第 2 章 調査の記録	
1. 日程・訪問先	184 頁
2. 文献リスト	186 頁

第 3 部 高等教育研究グループの活動の記録	190 頁
------------------------	-------